

## あとがき

### ＜編集顧問＞

太田 保世  
諏訪 邦夫  
堀江 孝至  
村山 正博

### ＜編集委員＞

相澤 久道  
石坂 彰敏  
和泉 徹  
小川 聡  
永井 良三  
三嶋 理晃

### ＜編集協力委員＞

赤石 誠  
赤柴 恒人  
北風 政史  
近藤 哲理  
中沢 潔

(五十音順)

我々の世代にとって、卒後数年間の研修中に本誌に研究論文や症例報告を投稿することは一つの憧れであり、名前が掲載された雑誌が手元に届いた時は随分感激したものであった。特に、症例報告は内科医としての勲章の様にも感じられるものであったし、その疾患に関するあらゆる文献を検索し、考察して、自分の症例を改めて勉強し直す絶好の機会であった。指導医との間のやり取りを通じて、科学論文の書き方も勉強できた。自分のミスで掲載論文に誤植が見つかった時の大きな落胆も、次への大事な経験となった。

ところが最近の各誌の症例報告の投稿状況を見渡すと、どこも論文数が著減しているのはどうしたことであろうか。私の研究室においても、学会発表まではコンスタントに出し続けられてはいるが、論文として上がってくることは減多になくなっている。論文の推敲、文献の纏め方を含め、若い諸君達は何処で勉強しているのか甚だ心配になってしまう。確かに、研究成果の発表は海外の英文誌や学会誌が主体となり、それにエネルギーを費やしているのかもしれない。また、そうした学術雑誌では症例報告の取り扱いが年々厳しくなっている。それは雑誌の Impact Factor 重視の観点から、引用される可能性の低い症例報告の枠が減らされており、段々と執筆意欲が下がって来ているのかもしれない。

編集委員としての毎月の査読作業を通じて、大変立派に仕上がっていると感じる論文ももちろんあるが、一方では、基本が欠落している論文に触れ、自分の教室の若い人の論文を校正するような気になって思わず赤を入れ過ぎてしまうこともある。最近も時々話題となる論文盗用やデータ捏造といった問題も、若い頃に、論文とは何か、自分がその論文にどれだけ大きな責任を負っているか、ということをしつかり指導者から叩き込まれていないためのような気がして仕方がない。

基本に立ち返って、症例報告を書くことの重要性を改めて後輩達に教えるべきだと感じている。そういうエネルギーがつぎ込まれた本号の症例報告を読んでもみると別の興味が湧いてくる。

(小川 聡)

## 呼吸と循環 (第56巻 第11号)

2008年11月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2008年、年ぎめ予約購読料 31,800 円)  
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 菊池・樋川・今田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

**JCLS** (株) 日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。